

第3回 第三者評価委員会 会議録

1 日時等について

日 時	平成 28 年 7 月 12 日 (火) 午前 10 時 00 分
場 所	教育委員会室
出席者	
評 価 委 員 長	尾 木 和 英
評 価 委 員	佐 藤 晴 雄
教育委員会事務局次長	後 藤 隆 宏
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	岸 川 紀 子
教育委員会事務局参事 (すみだ教育研究所長事務取扱)	高 橋 宏 幸
学 務 課 長	須 藤 浩 司
指 導 室 長	月 田 行 俊
生涯学習課長	岡 本 香 織
スポーツ振興課長	佐 久 間 英 樹
ひきふね図書館長	石 原 恵 美
中学校長会長	松 井 隆
小学校 P T A 協議会長	小 出 昭
中学校 P T A 連合会会長	伊 藤 公 明

2 議題

- (1) 学校教育分野における事業の点検・評価について
すみだ教育指針「施策の方向2」

3 会議の概要

庶務課長 本日は平成 28 年度第 3 回墨田区教育委員会第三者評価委員会となります。この会議は公開ですが、今のところ傍聴人はおりません。また、本日は、オブザーバーとして、小学校 P T A 協議会長、中学校 P T A 連合会会長、中学校長会の会長にご参加いただいておりますので、ご紹介させていただきます。

(オブザーバーを紹介する。)

庶務課長 それでは尾木委員長、議事進行をお願いいたします。

尾木評価委員長 では、改めましてよろしくをお願いいたします。本日の議事は、「社会教育分野における事業(すみだ教育指針「施策の方向2」)の点検・評価について」です。お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。それでは、目標1「(1) 家庭の教育力向上と活用への支援」から、ご説明をお願いします。

(次の事業について、すみだ教育研究所長及び生涯学習課長が説明する。)

目標1 家庭教育を支援します

(1) 家庭の教育力向上と活用への支援

- ・ 家庭教育冊子の発行
- ・ 家庭と地域の教育力の充実
- ・ 教育相談

尾木評価委員長 ありがとうございます。そこまでが目標1となります。それでは、本日参加しています、中学校PTA会長さんから、ご意見等ありますか。

中学校PTA連合会長 地域育成者講習会等を開いていただいて、知らない部分であるとか、去年は青少年育成委員会会長さんから、育成委員会の活動についてお話していただき勉強になりました。引き続き継続してほしいと思います。子どもたちを育てるといのは、やってよかったと思える環境も必要だと思うので、勉強させていただきながらやっていきたいと思っています。今まで培った資源といますか、そういったものを経験させていただきよかったなと思います。

尾木評価委員長 地域育成者講習会というのは、小中学校、両方対象ですか。

生涯学習課長 地域育成講習会というのは、青少年健全育成に関わる区内の方を広く対象としていますので、どちらかということ、子どもの、小学生にはこう対応しようといった狭いところというよりは、あまり講習とかに関係なく、もう少し広い、個別の小学校のPTA、中学校のPTAそれぞれ研修外というも実施しているのですが、この場合は、それぞれの保護者の方というよりは、育成者という感じなので、昨年ですと、年齢に関係なく、子どもたちに外での体験活動がどういう効果をもたらすかということをお話する予定にしています。

尾木評価委員長 参加者が112名ということですが、これは、小中学校でいうと、やはり小学校のほうが多いのですか。

生涯学習課長 青少年育成委員さんということもありますので、PTAや保護者の方というよりは、広く健全育成に関わっている方ということで年齢も問わず、あまりその辺りは意識していません。

尾木評価委員長 分かりました。小学校PTA会長さんから、ご意見等ありますか。

小学校PTA協議会長 保護者のお父さんをいかに取り込んでいくか、関わっていただくのに土日開催であるとか工夫していただいていると感じます。あとは現場で我々PTAの役員に直接かかわっている各学校の管理職さんたちが、いかに現場で普通のお父さん、お母さん方に、こういうことをやってみませんかといった声掛けするという意識を持ちながら、だんだんと関心を持ってくださる方を見出していく必要があると思います。たぶん潜在的な数というのはたくさんいると思いますので、校長先生ともお話している中で、すごく有効な人材の方が地域に埋もれているのですけれども、そういう方に限って、私が私がとは言われないので、やはりイベント等を通していろいろな人間関係を作っていくながら、日常会話というコミュニケーションを通しながら丁寧にそういう関係を作っていくほうが、結果的には子どもたちにとってはよい体制が将来的には見込めますねといったご意見を校長先生からいただきました。私も地域の間人として、長く子どもたちと関わってくださる方と丁寧に取り組んで、結果を待たずにまた来年度に向けて検討し継続していただけるのはありがたいと思います。また、私たちも頑張らなくてはいけないと責任は重大かなと思っています。

尾木評価委員長 それでは、次に、中学校長会長さんからご意見等ありますか。

中学校長会長 「教育相談」で、子育て支援総合センターが各小中学校、保健センター等の関係諸機関との連携を図りながら、多くの児童生徒等の教育上の悩みの解決に向けた相談業務をしてきたところでは、大変実感があり、大変助かっております。また、今後ますますこういうニーズが増えるであろうというところで、さらにきめ細やかな教育相談、教育支援が必要になってくると思います。

尾木評価委員長 それでは、次に、佐藤評価委員からご意見等ありますか。

佐藤評価委員 小学校入学前から、読本「小学校すたーとブック」を発行されていて、非常にユニークでよいと思います。今度は、中学校の方も考えているということで、さらに改良されているのかなと思っていますので、ぜひ実現していただきたいと思います。それから、「家庭と地域の教育力の充実」について、家庭教育に関しては全体的に補助金が少額という話があったのですが、それでもまだ12団体の申請があるというのは評価できるのかなと思います。おそらく参加される方はある程度、固定されているのかなとは思いますが。それから「子育て通信」についてですが、これを配布した反応というのはどうですか。

生涯学習課長 読んでいただいた方からは、内容がわかりやすく書いてあると感想をいただいておりますが、配布している部数ほど多数の反響があるというわけではありません。

佐藤評価委員 たぶん、手には取ってもあまり見ていないのではないかなと思います。全員が見るといのはあり得ないと思っていてよいと思います。その他、父親の参加ということですが、昔、週休2日制以前に、社会教育で日曜日の授業を父親向けにやっても来ない、父親は日曜くらい休みたいと

というのがありました。週休2日制になってからは、大分よくなってきたので、親御さんの中から半分くらいは父親が出てくるというのは、やはり評価できると思います。普通は出たくないと思いますので、その中で出てくださるということですから、とてもよいことなのでこれからも続けていただきたいと思います。教育相談に関しては、1つ言わせていただきたいのは、生涯学習セクションである教育相談が、あまり学校と関係が近くない方がいいかもしれないと思います。なぜかという、ここで相談すると学校にばれてしまうとかいうことがありますので、連携しつつ独立して作り上げていく匙加減を、おそらくそうしているとは思いますが。それから、これは相談を受けている方が臨床心理士、何人か非常勤で雇っている方でしょうか、そういうことがもしかすると学校の方では、ソーシャルワーカーなので、ソーシャルワーカーとカウンセラーとは全然立場や発想が違いますので、カウンセラーの方は人間に働きかけて、ソーシャルワーカーは子どもの周りに働きかけるというところで、その辺りが何かを確認していただいた方がよいのかなと思います。

尾木評価委員長 墨田区においても、家庭教育の多様化ということがやはり年々進んできているように感じています。様々なご家庭があつて、先日も、少し関係した学校があつて、忘れ物をしたお子さんに対して学校が指導をしたら、この子どもは今までそういう指導を受けたことがなかったので、十分留意して指導してほしいといった要望があつたという話を聞きました。特に外国で学ばれたお子さん、帰国子女も含めてですが、そういった方が増えてきたり、墨田区でも学校によってさまざまな児童生徒を抱えているところが増えてきていると思います。それだけに、「すたーとブック」であるとか、「家庭支援教育講座」というようなことを通して、そうしたことに向かつての働き、より学校への適用を図るということが重要になってきていると思います。それから、私がよいと思ったのは、幼稚園とかである一定の時間を地域の方に開放して、共通の保育をやっているような幼稚園が区内にあるのです。それはその中で、これから学校へ入るようなお子さん、親御さんが教育について理解を深めていく様子を見たことがあるのですが、これは幼稚園独自で行われているということなのではないか。

小学校PTA協議会長 私の家の近くの幼稚園では、そういった形のものはありませんでした。しかし、そういったことで保育園がそこを紹介したり、また、地域にあるということですから園長先生もその保護者のお父さんお母さんも、その町会に属している方々が、その地域の方だったり、青少年部長さんだったり、父母会の役付の方と、そういったところで何らかしらのイベントを通して触れ合うというのはよいことだと思います。たぶん日常の中では、生活時間がすれ違ってしまって、同じ町内に住んでいるにも関わらず、顔すら合わせることがない人たちが、その時間だけは会って、食事会にしても子どもたちも楽しめるという共通認識の下で集まったときには、すごく気軽に挨拶も交わせるでしょうし、よい人間関係を作るきっかけにはなると思います。園長先生の考え次第ということもあるのですが、それをどちらから働きかけるか、どちらからか切り出すきっかけというのはどうなるのかなというのは思っています。たまたま今週末の土日に、町会で近所の宮里神社、こんにやく稲荷という神社の境内で、ダンプで土を運んできて、水木で土俵を作って土俵祀りをさせていただいて、土日で相撲を取ってもらって、7月20日海の日に片づけて、火曜からラジオ体操という、夏のお決まりのパターンがあるのですが、うちの第三吾嬬小学校の子どもたちもちろんですが、近隣にある八広保育園の園長先生にもお手紙を渡して、初日の土曜に未就学児である園児たちも参加して、

ほとんど泣き相撲になってしまうのですが、先生方にお声かけさせていただいています。上の子がいて下の子が保育園に行っていたり、あとは友達同士で誘い合ったりしたりとかして、散歩がてらに覗きに来てもらったりとかして、そういった形で、土俵作っているときに園児たちから頑張っ、と応援してもらったりとか、そのような中で関係性というものを今は持てているので、そこからどのように一歩踏み込んでいくのかというのは、大人と保育園、大人と小学校、といった、個別には違う場所なのですが、そういった目的意識を持って一緒にやろうというような感覚を、この先お互いが持っていけるときともっと結びつきやすくなると思いますし、取り組みやすくなると思います。やっていることはこれからも同じですけども、そういった意識を持って取り組むと違うかもしれません。

尾木評価委員長 大変貴重なお話をいただきありがとうございました。そういうことも含めてこの事業展開をしていただくと、より効果的になるなと思いました。それでは、続いて、目標2「(1) 地域の教育力向上と活用への支援」の説明をお願いします。

(次の事業について、すみだ教育研究所長及び生涯学習課長が説明する。)

目標2 学校と地域を結ぶしくみをつくります

(1) 地域の教育力向上と活用への支援

- ・ すみだSSTステップアップ講座の実施
- ・ リーダー育成事業
- ・ 放課後すみだ塾及び放課後学習クラブの実施
- ・ すみだチャレンジ教室の実施
- ・ 放課後子ども教室
- ・ 地域体験活動
- ・ 学校支援ネットワーク事業
- ・ NPOすみだ学習ガーデンとの連携

尾木評価委員長 ありがとうございました。そこまでが目標2となります。それでは、ただいまの件について、小学校PTA会長さんから、ご意見等ありますか。

小学校PTA協議会長 「すみだチャレンジ教室の実施」について、子どもたちは連続して3日間、5日間、それって、大人でもきついなという印象です。子どもは勉強が仕事といえはそうなるのですが、我々大人が子どもに対して、学校の先生のことやある意味共通の話題を持っていたりすると、「え、お父さん、そんなこと知っているの。」「先生と色々お話しているからこのことも知っているよ。宿題もこんなのがでているんでしょ。」といった話をすると、子どもの目線というのが変わるのです。お父さんやお母さんは、学校の先生と同じように色々なことを知っているのだとわかると、子どもって少し緊張しますよね。油断しなくなると思いますか、それで私と同じように副会長になった方も、それで実感をしていると話をしています。「今日、先生と話をしてきたんだよ。」と言うだけで子どもは背筋が伸びるのです。でも子どもたちは、これに取り組む数日間というのは、普通の授業以外にチャレンジして出てくるということに関しては、結構大変なことを自分に課しているのだと思うので、我々としては、ときには学校の先生と話はするけれども、そういう部分では、自分の家のお父さ

んお母さんに戻って、そういう子どもたちを褒めてあげるだとか、教育長が言われているように、「勉強するときに一緒にいてあげてください。」と、おじいちゃんおばあちゃんでもよいので、そういうときに少し労ってあげたり、えらいねと褒めてあげたり、といったことを意識すると、子どもたちはその場ではただ聞き流しているだけかもしれませんが、その一言が子どもを結構励ましてあげることになると思います。それから、「放課後子ども教室」ですが、第三吾嬭小学校は大変恵まれておまして、校庭開放もしていますし、いきいきスクールもほぼ毎日夕方まで子どもたちを面倒見ていただく体制が当たり前のようにあります。他のまだ、25校のうち9校で未実施ということで、全校実施に向けて動いてくださっているということと共に、28年度の取組ということで、児童館との連携といった話も出ましたので、そういった形で色々なパターンのあり方を検討していただくことによって、様々なご家庭があると思いますので、そういった家庭ごとの選択肢が増えるのではないか、子どもをどのような形で放課後預けるか、子どもたちをどの場所で安全に見ていただけるかというところでもって、「放課後子ども教室」と近隣の児童館と連携していただくというのはよいことだと思います。引き続き色々なパターンを検討していただきたいですし、有難いことだと思います。「地域体験活動」は、青少年委員会の活動と重なるところもあるということで、PTAとしましては、育成委員会さんとリンクしていることも年間を通してありますので、そういったところは、体は同じなので、気持ちは変わらずに子どもたちのために小学校、中学校、高校とできるところをみんなで努力して、子どもたちに色々な体験をさせてあげられるように引き続きお手伝いをしていただきたいなと思います。

尾木評価委員長 それでは、次に、中学校PTA会長さんからご意見等ありますか。

中学校PTA連合会長 「すみだチャレンジ教室」の成果のところ、3日間、5日間受ただけで、平均点がこれだけ上がるのはすごいことだなと思います。ただ、逆に見てしまうと、3日間なり5日間でこれだけ上がる前段階、つまり普通の学校の授業でのいわゆる学校の意欲といいますが、それが少しあると、あまり変な言い方はしたくないのですが、一般の授業の中でもう少し興味を持って授業を受けさせるとか、ただ単に教科としての英語なり数学なりのフォーマットといったものを教えるのではなくて、もっと子どもたちが興味を持って気を入れられる態勢、それを持てる授業といったものがあつたら、事前の点数も上がるだろうし、また、授業についてももっと分かるだろうし、どうなのかなとも思います。昨年度、ある先生の教科で、配点は30点だったのですが、その30点のうちの平均点が2.0点で、半分の人が0点だったということがあり、その生徒は家に帰って、親から何かしら言われているわけです。また、2点取ったから平均点という、そういう授業でいいのかなと疑問を持ちました。その方は講師の先生だということで、私の兄も高校の教師をしているということもあり、この話をしたところ、講師だって生活があるんだと言われてしまいました。皆、生活があるわけで、逆に教員免許はそんなに力があるものなのかなとったりして、我々も社会人として勉強して必要な免許は取って、いい会社でその免許の実力が発揮できればよいのですけれど、必ずしも全員がそういう状況ではありません。親の立場から言わせてもらえば、力不足の教師が授業をしていると、こんなふうには考えたくないのですが、成績の低い子どもたちが生まれてしまう、その教科に対して子どもたちのやる気はなくなってしまいます。やはり教育というのは、教える育むというよりは、共に育むものだと思いますので、お互いに勉強をしながらやらなければいけないと思います。私は教育

とは異なる仕事をしていますが、やはり、先生の資質といいますか、特に講師ということであれば、普通の先生ではなく、ある意味、講師をせざるを得ないという状況があつての講師だと思うので、それであればなおさら、その命を懸けてといえは上げさかかもしれませんが、自分の生活をするためにもしっかり自己研鑽を積んでいただいて、子どもたちがこの先生の授業を受けてよかったなと思えるような、またそれがきっかけとなって、先の勉強、学ぶという姿勢につながると思っていますので、そういうふうなところも見ていただきたいなと思っていますところ。少し話がずれてしまいましたが、何か、チャレンジ教室だけで成績が上がるというのであれば、もう少し学校での教育というのを見直してとってはあれですが、先生方にも努力してやっていただきたいなと思いました。

尾木評価委員長 今のご指摘は、むしろ、前回の施策1の方向に係る内容ですけれども、今の「すみだチャレンジ教室」の成績、成果の背後には、今のご指摘の問題が当然ありまして、整理をしますと1つは、教師の指導力の問題、もう1つは、個に応じる指導、学校には学校教育というのが、日本の学校には伝統的にも全国的にもそうですけれども、やはり集団を前提として、あるいは学級を前提としてやるのですけれども、その中でいかに個に応じて指導をするかということが課題になって、そのことについて非常に貴重なご指摘だったと思います。それからもう1つは、やはり学校の指導体制の問題、こういう3つの貴重なご指摘をいただきました。これについて、中学校長会長さん、いかがでしょうか。

中学校長会長 本当に核心ですね、教育は共に学ぶ、ということでありまして、全ての興味関心を持たせて、ぐいぐいと引き込ませるような授業を行うというのは、全ての教員の資質の目指すところではあるのですが、確かに、現実的には指導力に差はあります。場数を踏んでいけば、どんどんスキルも上がりますし、また、共に学ぶんだという教員としての資質も上がるという教員もいますし、それは組織的に対応していく必要もあります。それから、本当に指導力不足教員ということであるならば、それを組織として任用も含めて正していくという制度もありますので、そうなる教員であれば場合によっては分限免職ということもありますので、非常に難しいというのが現実にはあります。ほとんどの教員は、私も含めて、若いころは力不足があつても、生徒はそれでもついてきてくれて、「先生、理科って面白いね。」と言われたことを思い返すと、確かにあの頃は稚拙な教え方だったけれども、教科に興味を持ってくれた生徒もいたということは、教員の方にも学ぶ姿勢があつてこそだと思います。それから、もう一つ、喫緊の課題になっているのは、平均正答率というのがありますが、一所懸命興味は持つだけでも、平均正答率は低いというのがあります。それを数字の上でも成果を出すのだというのがあります。これはひとつの方向性なのですが、ある学校では、その興味関心があり、学習意欲がある子どもというのは、平均正答率というのもおそらく高い、逆に、今まで興味関心は無かったのだけれども、平均正答率が上がれば、ますますやればできるのだというので、算数でも英語でも、特にこの2教科は積み重ねが大事な教科ですので、出来れば興味関心が上がるという教科でもありますので、そのようなところで色々な授業改善、そのプランというものも年々具体的に成果を出しているということもありますので、そのように取り組んでいるということです。昨年度から、中学校でいえば、今10校ありますけれども、成果を上げている中学校もありますし、残念ながら落ちてしまっている学校もあるわけですが、また、三步前進、二歩後退だとしても一歩は前進しているわけですから、また一歩前進していくということで、生徒と共に試行錯誤しながらや

っていきたいと思っています。

尾木評価委員長 佐藤評価委員から、ご意見等ありますか。

佐藤評価委員 私からは、「すみだSSTステップアップ講座の実施」について、講座の参加者数が非常に少なく、2割にも満たないということなのですが、講座は何時間くらいやっているのですか。

すみだ教育研究所長 トータルで1時間半強です。基本的には、最初にお互いのグループワークを早めに行い、それから困っていることなどを先生方の中で話していきます。SSTの本業以外のところで別枠で場を設けるので、やはり足が遠い方は参加されにくいのかと思います。

佐藤評価委員 では、確保していただくということをお願いします。それから「リーダー育成事業」のリーダー研修会ですが、対象は青少年委員ということですよね、青少年育成委員というのは任意ということだと思いますが、東京都という青少年対策委員のことでしょうか、何かそれとの関係というのはないのでしょうか。

生涯学習課長 直接的な関係はないのですが、割と子ども会に派遣するということは多いです。地域のイベントの中に派遣していくということがあれば、育成委員会と関わる場合もありますし、学校とかでやっているフェスティバルのようなものに子ども会も育成委員会も出てきて、同じ場において活動するというと、あまり育成委員会自体の事業に出てくるというケースというのは割とないと思います。

佐藤評価委員 逆に、大田区とかでは、地区ごとに参加者を育成委員から推薦してくるので、地区ごとにこの子から入れてくれということで、そうすると活動が定着していくというような例もあります。今後このような事業というのは、子どもの数が減っていく中で、参加者は伸びないと思うので、そういったときに何か地区との関係というのが、今後必要になってくるのかもしれない。

生涯学習課長 青少年委員は、小学校から選出するので、青少年委員が学校でPRをしてそういった中で参加者を増やしていると聞いています。育成委員から推薦というのは考えていないので、そういったことも検討する余地はあるのかもしれません。

佐藤評価委員 今度はそれを工夫するとよいのかなと思います。それから、「放課後すみだ塾及び放課後学習クラブの実施」については、ベーシックに、かなり充実していて、学力を上げていくということで非常によい取組をしていると思います。それから、先ほど中学校PTA会長さんが言っていた「チャレンジ教室」で成績が上がったということについては、事前に似たようなことを指導して、似たようなテストをしてこのような結果なのかなと思います。これはこれで励みになると思います。昨年の中教審答申の「地域化協働本部」(仮称)という話が出てきて、これは地域と校長をひっくり返して、地域が先に来る、支援じゃなくて共同化、これは生涯学習文化財がこだわっていたんですよね。これは結局何かというと、生涯学習、社会教育の取組が学校の下請けになってはいけないというのがあったのですね、そこで少しひっくり返していったのと、協働だから学校に一方的に支援するのでは

なくて、地域にとってもプラスになるような地域の地方教育の向上や活性化、あるいは地域の大人の学び、ボランティア活動をすることによって大人が学べるということですね、そういった側面も強調しましょうと、中身は学校支援システムとあまり変わらないのですけれども、また今後、道徳の授業の中とかでも、地域の人にとっても何かプラスになるようなことを自主的に組み立てていただくとよいのかなと思います。色々な形が出てくる中で認証する部分もあるし、活動について考えると、そういう方たちのための特別の、例えばすみだ学習ガーデンの活動に優先的に参加できるとかあるのかなと思いました。

尾木評価委員長 このあと、文化・スポーツあるいは図書館に関わって出てくる内容は、大きく分けて2つの意味があって、今、論議されたのは、その一つの側面で、非常に多様な子どもたちに向かつての手厚い内容ということで事業化されてきている内容、これが一つの方向なのです。私も割と全都的に広い地域の学校、教育委員会に寄せていただいているのですが、比較の目でいうと、墨田区の学校教育は、手堅い、成果も上げているということだと思います。しかしながら今、中学校PTA会長さんからお話があったように、例えば、チャレンジ教室一つを取り上げたとしても、その前提にもっと学校でやれることがあるのではないだろうか、というのが会長さんのご指摘だと思います。そこはこれからこの教育委員会点検評価全体を通して、そのことは分析的に押さえていただいて、どうしても事業ということになると、それぞれの課が分かれてやるということになりますから、これを統合してとらえていく視点というのは考えていく必要はあるだろうと思います。その際に大事になるのは、もう何年も前から言われていますけれども、学校教育がやれることというのが、学校教育だけでは成果が上がらないというのは言われておまして、どうしても家庭や地域の方々の協力、連携というのが非常に重要になってくるということなのです。たまたま3日前に、私はある別の区でコミュニティスクールの委員をやっておまして、その学校は今年度、墨田区も学校完全選択制だと思いますが、その関係している学校で入学の子どもが半分以下まで落ちたのです。今年度がくんと落ちたのです。それに対してコミュニティスクールの委員の地域を代表する委員の方々から非常に厳しい意見が出ました。それに白熱した議論があったわけですが、その学校には私は3年間も関わっているのですが、先生方はとてもよく頑張っているのです。それで成果も上げているというのに、なぜ生徒数が半分以上も落ちたのか、よく分からなかったのですが、どうやら、先ほど会長さんから言われたことと関係するかもしれないのですが、ある先生の指導が地域の中に口コミで伝わって行って、それが過剰に広がって行って、それが原因で入学者数が減ったのではないかと出てきました。そのことに関連して、墨田区の学校にも若干該当するのですが、学校というのは、学校で頑張っている成果や努力しているということは、案外、保護者や地域の方に十分伝えていないという面があるように思うのです。そうするとマイナス情報が口を伝わり広がって行って、それが少し歪んだ学校評価につながっているのかなと思うのです。例えば、学校公開なんかも、これについては、中学校長会長さんにもお尋ねしたいのですが、若干、保護者の方々に対しては、学校公開について働きかけするけれども、地域に学校のことを知ってもらいたい、今、学校で困っていることを地域で共有していきたいといったようなメッセージ性が少し弱いのかなというようなことを思って、今日ご報告があった「放課後学習クラブ」にしても「チャレンジ教室」にしても「放課後子ども教室」にしても「地域体験活動」、「学校ネットワーク事業」にしても、全部背後には、保護者の方々や地域の方々がいますね。そういった視点を入れて事業展開を考えていくことが大事なのではないかなと思います。

尾木評価委員長 では、続いて目標3「(1) 文化・芸術活動と歴史・文化理解の推進」からご説明をお願いします。

(次の事業について、生涯学習課長及びスポーツ振興課長が説明する。)

目標3 文化やスポーツなど地域での活動の機会を広げます

(1) 文化・芸術活動と歴史・文化理解の推進

- ・ すみだ地域学セミナーの開催
- ・ すみだ郷土文化資料館の運営
- ・ 文化財の保存・普及

(2) スポーツ活動の推進

- ・ 墨田区スポーツ推進計画の策定
- ・ 総合型地域スポーツクラブ事業
- ・ (仮称)総合運動場等整備事業(旧事業名:陸上競技場等整備事業)
- ・ 総合体育館管理運営(PFI)事業

尾木評価委員長 今日、ここまで話し合われた内容というのは、一つは、墨田区全体の振興と生涯学習の展開ということの側面と、それから地域ぐるみの学校教育の推進といった二つの側面から事業展開されているのだと思うのですが、次長さんから何かそのことに関連してお話いただくようなことは、ありますか。

次長 各事業のその目的の中で適切にやっていきたいと考えています。

尾木評価委員長 佐藤評価委員から、文化・スポーツに関連してご意見等ありますか。

佐藤評価委員 すみだ地域学セミナーで受講者のマンネリ化が高いということであれば、内容を充実していくということは課題だと思います。英語セミナーについては、英語を話せる人が邪魔をするということであれば、予算の有無にもよると思いますが、よくあるのが一講座を隠しておいて、英語が上手い人についてはそちらへ上手く誘導するということができればよいのですが、そちらはお金がかかることなので、どちらかというとうまい人と混ぜてしまうと、初心者で純粋な気持ちで入ってきた人が排除されるので、そういったところでも工夫が必要になると思います。郷土文化資料館については、1回目の重要審議対象事業の方でお話しさせていただきました。スポーツに関しては、かなり色々工夫されているということで、比較的、大型スポーツクラブというのは、計画よりも予算の関係で縮小されてしまいがちなのですが、その中で事業の委託というのはよい取組だと思います。この辺りの今後の可能性というのを拡大していくというのが課題になっていくのかなと思います。外から指導に来るというのも部活動の問題との絡みで、実は期待できるのではないかなと思います。中学校の部活動は、ブラック部活といわれている中で、平成8年くらいの中教審答申の中で増やしていくと期待があったのですが、こちらが増えないのと競技種目の障壁があって上手いかなくなってしまったので、今後部活の関連でどうなっていくのかというところで、そういったところでももう少し可能性を模索し

ていくというの必要なのかなと思います。最後に総合体育館の利用者の急増というのはよい傾向だと思いますので、こういうところで利用者数が増えるということは、よい意見も増えるということですので、いろいろ工夫はされているところですがさらなる工夫を期待しています。

尾木評価委員長 私は、一地域住民として、私の実感でいいますと、この4、5年くらいの中で、墨田区の文化財の保護・普及と学校教育の連携という意味では、非常に進んできているなといった印象を持っています。整備されてきましたよね、今のご報告の中で具体的にいうと、すみだ郷土文化資料館、ここをもう少しPRしてもらって認知度、認識度を高めていってもらいたいと思っていますけれども、しかし、総体的な事業ということですと、ここでは、その次の「文化財の保護・普及」の様々な事業については、成果を上げてきていて、特に重要な視点は、「国際観光都市PRのために文化財資源を活用していく必要がある」、「区民の学習活動等に資するために文化財情報を積極的に発信する必要がある」というのは、非常に重要な視点ですので、これからぜひ事業転換の中で力を入れていってほしいと思います。このことと関連するかどうかは分かりませんが、墨田区に大学を誘致するというような事業というのは、これは進んでいるのでしょうか。

次長 現在、交渉中でありまして、進展については公表するという事柄なのですが、まだそこまで至っていないというのが実情です。ですから、その事業自体がなくなったということではありません。

尾木評価委員長 ぜひ、ここは教育委員会の点検・評価事業なのですが、やはり予算的なことから当然区長部局でやっている、特に区観光課との連携みたいな点は、意識されて事業展開されていくことが重要だと思います。おそらくされていることだとは思いますが、私は、台東区の点検・評価も担当させてもらっているのですが、あそこは何年も前から観光PRについては、浅草が閑古鳥が鳴いていた時期があり、あの頃からものすごい力を入れていて、それがようやく実ってきているという実感がありまして、東京特区といったことも視野に入れて、そういうことを考えていただいた方がよいのかなと思います。それでは目標4「(1) 教育機関等との連携による学習・指導支援の推進」からご説明をお願いします。

(次の事業について、すみだ教育研究所長、生涯学習課長及びひきふね図書館長が説明する。)

目標4 大学や図書館等多くの教育資源と連携し、学ぶ機会を広げます

- (1) 教育機関等との連携による学習・指導支援の推進
 - ・ 大学等との教育連携
 - ・ 学生ボランティア事業
 - ・ すみだ生涯学習ネットワークの構築
- (2) 区立施設等の連携・活用による学びの推進
 - ・ 生涯学習センターの運営
 - ・ ひきふね図書館の運営

尾木評価委員長 この事業の中での、特に学生ボランティアの活用をもっと推進していくことが、墨

田区の事業展開の中では重要ではないかと思っているのですが、中学校長会長さんにお尋ねしたいのですが、教育実習の受け入れというのは、あれは、各学校単位で決めることなのですか。

中学校長会長 正式には、東京都の方からこのくらい的人数で、この科目というのが必要なのだといわれます。

尾木評価委員長 それは、どこか割り当てられるものですか。

中学校長会長 具体的に言いますと、最初に割り当てるのは、副校長会で、教育委員会の方からこういうニーズがあるので、ぜひ積極的に受け入れてほしいということで話があります。

尾木評価委員長 絶対数というのは、都の指示に従っているのですか。

中学校長会長 はい、そうですね。あと、大学によっては、個別にその学校にお願いしますというのがあります。

尾木評価委員長 バイパスもありますよね。

中学校長会長 はい、でも、基本的には東京都から来るというのが正式ルートということですよ。

尾木評価委員長 あの方々を受け入れますね、それで墨田区で受け入れた学生ボランティアの方々には、教育実習を通じて墨田区への小中学校への理解を深めて、そして非常に共感を高めて学校に戻ってもらうということですね。その方々に引き続き、ボランティアで、色々なところで活動してもらうといったシステムというのを作ってもらうというのは、難しいことでしょうか。

中学校長会長 今は、そういったシステムはないですけども、例えば、体育科の教育実習生ということであれば、プールの指導員をお願いしたりとかといったような形で個々にそのつながりを持っていくというような場合もあります。あるいは、教育実習生がもう実際に教員免許を持っている大学院生という場合は、例えば、自分の経験が、余裕があって時間的にも大丈夫だということであれば、学校支援をお願いするだとかというような形で、個々に学校単位で人を探すと場合もあります。

尾木評価委員長 今、私は、手探りでお話をしているところなのですが、一時、私自身が大学でそういう仕事に携わっていた時期がありまして、そのときに色々な大学生と情報交換をしていたのですが、大学側も学生にぜひ教育委員会、区立の幼稚園、小中学校、あるいは図書館みたいなところで、キャリア教育の一環として、自分たちの進路意識を作してほしいという要望を持っていまして、それで私がそのときやっていたときには、多くの大学でそういったセンターを立ち上げたのです。私が勤務していた大学でもそういうセンターを立ち上げて、教育委員会や学校のパイプ役となって、それで都の割当て以外にもいろいろ働きかけて、それを単位化した学校も多かったのです。特に図書館なんかについても、図書館に関する単位をたくさん取っていて、将来は図書館で働きたいといった学生が潜在

的にはたくさんいます。そういうようなところを、どこかの授業の中で少しそういった情報をつかんでいただいて、特に教育実習の学生さんたちには、そういったところを経験したうえで教員になってもらおうと、教員になってからまた違うような気がするので、少しお考えいただけたらと思いました。

ひきふね図書館帳 まさに今年度そのような学生さんが、ひきふね図書館に1名、インターンシップでぜひやりたいといったご要望をいただいております。

尾木評価委員長 そうですか。少し脱線したお話になるかもしれませんが、現在、私は大学4年生4、5人の家庭教師をやっていて、何をやっているのかというと、大学4年生のこの段階で、まだ就職先が決まっていないというのは、5～10個くらい試験を落ちているのです。その方に、1人は本来ならば、図書に関することで働きたいという希望を持っていて、それに必要な単位というものも持っているのですが、その子たちが、今、小・中・高・大を通しての問題になるのですが、キャリア教育というのが上手くいっていないものですから、法科に行っている子も、文科に行っている子も、理科に行っている子も、みんな同じところに試験を受けに行っていて、入ったり落ちたりしているのです。その意味でも、私が今、家庭教師をしている大学生たちは、とても優秀で、国立大学でもよい成績を取っている子たちなのですが、それが最後になって落ちてしまうのです。今日も、実は、三次面接まで行っている子がいるのですが、二次面接くらいまでは行くのに、三次面接で落ちるとというのは、企業側も、今必死ですから、最後は企業にとって役に立つ人間を取ろうとしているので、そここのところに来ると、本当にその企業に行きたい、そういった気持ちがある子は受かっていくのです。そういうのが、今、学生ボランティアなんかのところで、経験があるというのは非常に強いのです。そういう意味でも、少し、学生さんたちにも学習の機会を与えられるし、小中学校でもそういった方たちを役に立てることができそうですし、さきほど、中学校PTA会長さんからお話があった、総合指導力ということに活かせることが考えられるといいと思います。それでは、全体の感想として、中学校PTA会長さんから、ご意見等ありますでしょうか。

中学校PTA連合会長 本当に、行政の方々も地域のため、また、子どもたちのためということで、やられているということで実感がありますので、引き続きお願いしながら、また、PTAの立場として学校と地域お互いが支えられて、子どもたちを育てていくことによって、また地域が育つといいですか、実りが出来てくると思いますので、気づいたこと、やれることを1つ1つ一所懸命やっていたらと思っています。

尾木評価委員長 次に、小学校PTA会長さんから、ご意見等をお願いします。

小学校PTA協議会長 墨田区の抱えている問題、課題というものを、このような席に参加させていただきよかったと思います。縁のあるセミナーに参加させていただいたときに、自己紹介で「スカイツリーのある墨田区から来ました」と言えば、手っ取り早いのですけれども、無形文化財や芸術的な部分で、墨田区というものを外にアピールしていく、歴史を振り返った時に、こういうものが墨田区にはありました、というような自己紹介ができる墨田区に、将来なればいいなと思いました。あとは、色々な問題を抱えながらも、みなさん積極的に取り組んでいただいているので、引き続きお願い

したいと思います。

尾木評価委員長 次に、中学校長会長さんから、ご意見等をお願いします。

中学校長会長 私としては、現に、目の前にいる子どもたちと学校と、知・徳・体と言われますけれども、学力・体力ともに具現化する、大きいこと小さいこと含めて具体的にどうしていこうかということを考えていきたいと思います。なかなかいいアイデアというのは浮かんだり浮かばなかったりするものですが、そういう点では、いい自信ができたなということもありますので、そういった点では、有難い評価でありましたし、次につながる評価だったと感じておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

尾木評価委員長 それでは、佐藤評価委員から、ご意見等をお願いします。

佐藤評価委員 先ほど、学生ボランティアの話が出ましたが、法則みたいなことで2つくらい。学生の自宅から学校までの通学路に乗っていないとだめなのです。交通費の問題があります。家から駅の方に向かう小学校には、みんな行くのですが、反対側は誰も行かない、たとえ5分歩けばいいというものでもだめなのですよね。そういう意味でいうと、近隣大学なんかでいうともう少し幅広く声をかけていただくと、自宅が近いとたぶん行くと思うのです。あと、大学の近くの小学校のボランティアは、同じ大学が集まっているといいのですが、読み聞かせのボランティアというのがあまりうまくいっていないというのと一緒のように、かえって色々な大学が入ってしまうと、うまくいかないことがあります。ただ、自宅近くということだと大丈夫なので、もちろんそうでない方もいらっしゃると思いますが、そういう法則みたいなものがあるのかなと思います。それから、墨田の場合は、学力向上に力を入られているということで、すみだ生涯学習センターができたときは、当時話題になっておりまして、あれから21年経つということなのですが、この二つが墨田の教育施策というところで印象に残るまた重要な施策なのかなというように思いで、今までこの席に座らせていただきました。今後も二大柱として、充実させていただくことを期待しております。

尾木評価委員長 墨田区の小中学校の問題点というのは、体育・スポーツの、学校の中と外もそうですけれども、運動場がみんな狭いし、学校の外も危なくてあまり活用するところが少ないというのは、共通の悩みですね。私は、墨田区の中をいつも散歩していて、ここは活用できないものだろうか、と思ったときに、都立高校との連携といったものがないものだろうか、あれは、難しいものなのでしょうか。

スポーツ振興課長 都立高校に関しては、私共も色々と調査をしているところなのですが、地域に貸し出すということは前提にはありまして、将来的には、地域に色々提供いただきたいというように思っているところです。個別の学校の中で、これまでの沿革について、今まで外部に提供したことがなかったというのがありまして、今後どのように提供していったらよいのかというのが一つの悩みどころのようです。そういったことで、私共の方からもアプローチをしているところで、こういったことを続けさせていただいて、ぜひ地域に開放いただくとともに、私たちと共に一緒に事業をやらせてい

ただけないかということを進めていきたいと思っています。まだ、門戸は開かれていない状況です。

尾木評価委員長 私もよくは分からないのですが、もう少し部活なんかで連携を図れたりすると、高校生も、小中学生を教えると生き返る子が結構いるのですよね、ですから、そのようなことを頭の隅に置いていただければと思います。以上で、予定されていた議事は終了しました。ご協力のおかげで、中学校長会長さんからもお話しがあったように、明日に生きる評価ができたのかなと思っています。あと会議は1回を残すところです。事務局から何か連絡はございますか。

(事務局から次回の会議日程の確認を行う。)

尾木評価委員長 ありがとうございます。それでは、第3回第三者評価委員会を閉会します。